

会 議 議 事 録

件 名	神奈川県医療対策協議会
日 時	令和8年6月25日（木） 18：00～20：00
場 所	Zoomによるオンライン（配信会場：神奈川県総合医療会館）

<概要>

(1) 協議事項

- ア 令和8年度医療対策協議会について
- イ 神奈川県保健医療計画（医師確保計画）の見直しについて
- ウ 医師偏在の是正に向けた総合的な対策パッケージについて
- エ 医学部臨時定員の見直しに伴う本県の地域枠の取扱いについて
- オ 地域枠医師について
- カ 神奈川県キャリア形成卒前支援プランの見直しについて

(2) 報告事項

- ア 地域医療支援センターのイベントについて

(事務局)

この会議結果につきましては、非公開事項を除き、発言者の氏名を省略し、会議内容を要約した形で公開します。出席委員の皆様には、ホームページ公開前に内容の確認をお願いしていますので、よろしくをお願いします。本日の協議には非公開事案がございます。非公開事案を除き、原則通り公開します。その他、傍聴者については本日はありません。事務局からは以上となります。今後の進行について吉田会長、どうぞよろしくお願いいたします。

(会長)

はい、会長の吉田でございます。どうぞよろしくお願いいたします。。それでは早速、議事に入ります。
協議事項ア 令和8年度医療対策協議会について、事務局から説明をお願いいたします。

(事務局)

【資料に基づき、協議事項ア 令和8年度医療対策協議会について説明】

(会長)

ありがとうございます。ただいまの説明に関して何かご質問、ご意見等ありますでしょうか。

(委員からの意見なし)

(会長)

ありがとうございます。事務局は引き続きお願いいたします。

(会長)

議事を進めます。協議事項イ 神奈川県保健医療計画（医師確保計画）の見直しについて、事務局から説明をお願いいたします。

(事務局)

【資料に基づき、協議事項イ 神奈川県保健医療計画（医師確保計画）の見直しについて説明】

(会長)

はい、説明ありがとうございました。人口 10 万人対医師数は 233. 3 人で全国 41 位、外科の医師数は 45 位と非常に少ない。いまの説明に対して何かご質問、ご意見等ありますでしょうか。

(委員からの意見なし)

(会長)

そうしましたら、事務局はこのデータを踏まえて今後の調整を行うようお願いしたいと思います。

(会長)

続きまして、協議事項ウ 医師偏在の是正に向けた総合的な対策パッケージについて、説明をお願いいたします。

(事務局)

【資料に基づき、協議事項ウ 医師偏在の是正に向けた総合的な対策パッケージについて説明】

(会長)

説明ありがとうございました。これに関しまして、本日のアジェンダにあるとおおり大きく分けて二つ、一つが重点医師偏在対策支援区域、主に県央地域のそういった考え方、それともう一つは経済的インセンティブ事業に関して派遣元等に少し補助がある、そういったようなお話がありましたが、委員の方からのご意見よろしくをお願いいたします。

(委員)

いま説明を受けて、区域などについてはあまり異論はないのですが、インセンティブ事業を様々考えて実施するというスキームは分かりますが、財源規模に限度があるのかなのかというところをお伺いしたいと思います。といいますのは、法的な定めによるとこれは健康保険組合から財源を出すということですね。県は全くお金を出さないということでしょうか。といいますのも、この委員会の席に吉田会長と私は健康保険組合の役員の立場もありますので、少し心配な点もないわけではないんですね。

つまり、いま現在社会保険料が非常に高いと言われており、保険料引き下げについての意見も政治家や被保険者のなかにあたりするわけですが、そうしたご意見を参考にすると、規模と費用対効果がしっかり勘案されていないと、お金の出所は大変苦勞するのではないかと思います。そういう心配はもちろん、保険者協議会のなかで、意見を募るとは思いますが、ここの立場としては額の定めはないのか、それと費用対効果についてはどのように事前に検討しているのか、県の立場からお答えをして

いただければと思います。

(会長)

ありがとうございました。これに対して県の方から回答をお願いいたします。

(事務局)

まず財源につきましては、経済的インセンティブ事業の補助事業につきましては、これは保険料を財源とする事業ではありません。国庫補助金や県費を投入して実施する事業になっております。

当然予算規模はありますが、こちらは保険料が入らないと理解いただければと思います。

こちらの予算規模ですが、診療所の承継開業支援事業であれば20億円ですとか、派遣元医療機関支援事業であれば4.6億円、代替医師確保支援事業であれば5.3億円といったところです。全国的にもそれほど大きな予算規模になっている事業ではありませんので、こういったところの限られた予算をどのようなかたちで支援をするために使っていくのかという点をしっかりと検討していく必要があるのではないかと考えております。

また、保険料を財源とする事業については参考として示させていただいた、派遣医師従事医師の手当増額事業が保険料を財源として進めていく事業となっております。こちらの補助基準額やその支援機関または支援対象の医師については、こういったかたちの規模感になるかも含めてこれから国の方から示されるところでございます。そのため、こういった規模感で医師手当事業が進められていくのかについてお答えできるものを持ち合わせていない点をご理解いただければと思います。

(委員)

ありがとうございました。インセンティブ事業は県、手当事業は保険者協議会の議論に委ねたいと思います。

(会長)

ありがとうございました。他にございますでしょうか。

(オブザーバー)

オブザーバー出席しています県央地区大和センター所長の西海でございます。委員長より発言の許可をいただきましたので県央地域への重点支援区域としての支援について意見を述べさせていただきたいと思っております。

県央地域は大きく相模川の東西で分かれております。特に大和側の東部、県央東部の地区については非常に医療が不足している地域でございます。例えば、先日綾瀬市が市民を対象に病院誘致のアンケート調査を行いました。その結果、やはり病院を誘致したい、医療を充実したいという意見が結構寄せられたことを聞いております。それから大和地区におきましてはクリニックの廃院が続いており、継承の問題があります。そこを含め、ぜひ県央地域をこの重点支援区域に県西地区と一緒に加えていただき、重点的に医師を派遣していただく、そういう地域にさせていただきたいと考え意見を述べさせていただきました。

(会長)

ありがとうございます。県としてもそういったことを踏まえてしっかり対応していきましょう。他にございますか。

(会長)

この県央地区をそういった区域に含めたいということに関して、賛成あるいは反対のご意見どなたかございますでしょうか。

(委員)

先ほど窪倉委員がおっしゃった、保険者の了解がない限りこのプランは机上の空論ですし、その壁は簡単には突破できるとは到底思えないので、もちろん数字上は県央も入ることになりますが、具体的にやるとなれば様々な現場でのリアルな課題がでてくると思います。特に派遣をする病院は例えば、県西に夜勤に行く方が条件が良いので、湘南西部から県西に当直医が移ってしまうことなどが起こりうると思います。その意味で言えば、やはり県西や県央地域の病院、特に民間の病院の声を聞くことと、派遣先の病院の声を聞いたりしなければ、上から降ってきた事業は地域に混乱を招くと思っています。

また、横浜、川崎から派遣している病院もあり得ると思いますので、県にお願いしたいことは関係しそうなところから声をよく聞き、どういったことが予想されるかを確認したうえで、県の病院協会や大学病院で調整し事業化していかなければ影響が大きいのではないかと思います。

(会長)

ご意見ありがとうございました。他よろしいでしょうか。

(会長)

そうしましたら、県の方として委員の皆様の検討を参考にしながら調整を十分に行ってください。

引き続き議事を進めます。協議事項エ 医学部臨時定員の見直しに伴う本県の地域枠の取扱について、事務局からの説明をお願いいたします。

(事務局)

【資料に基づき、協議事項エ 医学部臨時定員の見直しに伴う本県の地域枠の取扱について、説明】

(会長)

ありがとうございます。皆様のご意見よろしく願いいたします。

(委員)

私は医師偏在の是正という意味では、この地域枠は非常に重要だと考えております。しかし、実際に入試や医学教育に携わる教員に意見を聞きますと、地域枠というのは神奈川県の場合は科の縛りがあるので、一般入試枠に比べると少し人気下がるということと、これは私の大学だけかもしれませんが、一般枠に比べるとこの地域枠の学生の偏差値が少し下がりますので、入学してから進級等に苦労される学生もいます。ですので、大学の優秀な学生を集めるという側面におきましてはこの臨時枠が減ったことによりこの地域枠の学生の数が恒久枠に取り込まれ一般入試枠が減ってしまうことは少し困るという

意見も出ましたので、ご報告させていただきます。

(委員)

私の大学も同じで受験生を別の試験で取っており、その受験者は倍率が低くなっていますので、少し差が出てきたところを通常定員の枠内に入れて募集するべきかどうかというのは考える必要があると思います。平均すると各大学の10%程度が地域枠というようなご意見で、地方の国立の大学を卒業した人が都内に戻ってしてしまうシステム自体を変えていかないといけないのではないかと考えております。

地方の国公立医科大学を受けて、学費が安いので私立ではなく国公立に入られる。そこでの年限を過ぎさないで帰って来ると、せっかく各県に医学部を作った意味がなくなり、それだけ税金を使って各地域で働く人の条件をもう少し強くすれば、我々のところの定員が減らされたとしても地域医療は守れるのかと考えております。やはりこの医師数が適正とは申しておりますが、生活が楽になっているわけではなく、これは臨床だけでなく、研究を含めて基礎系も含めて医学を充実させるためにいまの時期が医師を減らすべき時期なのかという点は考えなければいけないと思っております。

(委員)

恒久枠に入ってくると非常に悩ましいことが起きてます。今までは枠外として入学していたやや成績が劣っていた地域枠学生を恒久枠になると、一般受験生と完全平等に扱わなければいけないので、下手すると神奈川県に手を挙げた子たちが合格しないという状況が起きてしまう。その点、ここは非常に重大な案件になるかと思ひますし、ぜひご議論をいただきたいと思っております。

(委員)

横浜国立大学は地域枠をたくさん抱えており、恒久枠定員のなかで大体3分の1くらいが地域枠だと思います。地域枠はすごく重要で、特に外科医の確保や県西地域への医師派遣に非常に意味があるものだと思います。大学として既にたくさんの地域枠を背負っておりますので、この体制を変える予定は今のところないようです。さらに地方国公立に行った方々で横浜出身の方は結構横浜国立大学に戻ってこられる方が多く、そういう方々が地域医療に貢献していることも付け加えさせていただきます。

(委員)

今までも地域枠の学生を見ていたりしますと、やはり学生時代に地域医療というものに接したり、考えたり、地域医療に対するマインドが育てられるというのは、やはり地域枠の特徴かなと思っております。その点、地域枠は非常に大切な枠だと私自身思っております。

(委員)

地域枠を恒久定員の中に入れるかどうかというのは、各大学のかなり高次の経営判断だと思いますので、正直ここで決められる話ではないと思います。また、各大学の委員の方々がおっしゃってくださったように、入試だけ考えても様々な課題がありますし、その後も含めれば個別に各大学で考えていかなければいけないと思っています。

医師偏在の問題で1つ気になることは、医師の地域偏在を地域枠医師で解消しようということをやここ最近はずっと行っており、先ほどの推計も含めると診療科偏在を今のままずっと自由にやっている限りはいつまで経っても都市部でも医師が足りないという現象になると思ひますし、医師の中でも非常勤で

働く医師が増えてしまい、恐らく足りなくなると思います。ですので、医療界でできることは診療科偏在の是正の話で、全国的に人口が減少していく地域の偏在を医師だけはそこへ強制的に行かせるというのは国民レベルの話なのではないかと思っています。ですので、やはりこの話題は各大学病院でご検討いただいてその結論をこの場でご報告いただく形なのかと思います。

(委員)

大変ごもっともな議論だと思いますが、最後に結論を出す前に念頭に置いていただきたいことは、恒久定員のなかに押し込めることによって、研修医の確保に繋がるという側面があることですね。臨床研修の定員枠が増えるか減るかという問題も結局ありますので、これがまた大学医局の定員にも響くという可能性もないわけではないので、そうしたことも含めて最終結論を出さなければいけないと思っています。

(会長)

そうしましたら、県としましては各委員の皆様の発言を踏まえた形でしっかり検討を続けてほしいと思います。

(会長)

続けて次の話題に参りましょう。協議事項カ 神奈川県キャリア形成卒前支援プランの見直しについて、報告事項ア 地域医療支援センターのイベントについて、事務局から説明をお願いいたします。

(事務局)

【資料に基づき、協議事項カ 神奈川県キャリア形成卒前支援プランの見直しについて、説明】

【資料に基づき、報告事項ア 地域医療支援センターのイベントについて、報告】

(会長)

ありがとうございました。ご意見、ご質問等ありますでしょうか。

(委員)

神奈川県の地域医療を語る会というものがありますが、実際に自治医科大学と北里大学の学生が夏季研修を行うということが何年か続いており、その席で、北里大学の学生たちも長年、自治医科大学の学生たちと交わる中で非常に地域医療マインドをしっかりと育てていく経過を私自身も見てきました。非常に良い取組だと思っています。そこに他の地域医療の学生たちも接することで地域医療のマインドが育っていくのではないかと期待しています。その意味で言えば、この地域医療を語る会というところに是非地域枠の学生たちがしっかりと参加するような方策を取って意味のある会にしていいただければと思います。

(委員)

昨年病院見学会のご案内や選択肢について話題があったかと思います。そのあたりについて改善、工夫した点を教えていただきたいのと、地域医療を語る会が自治医科大学と北里大学の地域枠学生以外にどれぐらい参加しているのか、またその周知について、例えば、今日いらっしゃる4大学の先生方はこ

のイベントが8月15日のお盆にあることは周知が行っているのか、そのあたりについて教えていただけますか。

(事務局)

病院見学会については、例年地域医療支援センターの方で学生を募りマッチングをこちらでさせていただいて、間に入り行っていましたが、今年から受け入れをしてくださる病院のリストを学生に提供して、それを見て学生に自由に応募いただく形を取らせていただこうかと考えております。ですので、より自由に学生としては参加していただけるのではないかと考えております。

(委員)

ありがとうございます。その周知はもう準備されているのですか。

(事務局)

はい、リストにつきましては、今病院から希望状況を伺ってリストの準備をしていますので、学生に案内をかけさせていただく予定にしております。

(委員)

わかりました。では、次の件お願いします。

(事務局)

神奈川県地域医療を語る会につきまして、もともと自治医科大学の学生と北里大学の学生は基本的にこの夏季実習に参加された方については全員この報告会に参加いただいているイベントになっております。自治医科大学の学生が1学年に2、3人、相模原市の地域枠が2人、その6学年分という形になっております。そこにさらに各大学の地域枠の学生にも紹介させていただいて、地域医療を語る会をドッキングして行うことによって、各大学の地域枠の学生と自治医科大学の学生との交流も生まれるのではないかと考えて合同開催を企画したところでございます。8月15日に実施するというご案内については相模原市地域枠の学生の夏季実習の内容に係る打合せが6月30日に予定されており、その結果を踏まえてチラシを作成させていただいて、7月頭にはご案内をさせていただこうかと思っております。少しギリギリにはなりますが、各大学に広報のお願いを進めていこうと思っております。

(委員)

ありがとうございます。去年も指摘しましたが、いくら学生とはいえ周知があまりに遅いと、開催日は夏なので人が集まらないと思います。イベントの主旨や参加者の満足度は非常に高いイベントだと思うのでぜひ早めに行っていただければと思います。

また、最後に医師不足診療科の啓発セミナーについて、特に今年は外科をやられるということで神奈川県医師会としても今後外科に進んでいただく人が増えてほしいと、強く関心を持っておりますので、こういったイベントについては病院協会や医師会としても積極的に関わっていきたいと思いますし、委託された業者には、医師会や病院協会もこちらにぜひ混ぜてほしいので一声早めに声をかけてほしいと

いう風にお伝えしていただければと思います。

(会長)

そうしましたら、県としては各委員の皆様からの意見をきちんと尊重してお願いいたします。そういった形に関して、一緒に、あるいは病院協会も協力することはやぶさかではありませんので、ぜひぜひお声をかけていただきたいというふうに思っております。ほかよろしいでしょうか。

(委員)

1 点イベントの紹介をさせていただきます。すでに今年で 6 回目になりますが、横浜市医師会が臨床研修屋根瓦塾というものを行っております。50 名先着順ということで 1 チーム 7 名の 7 チームで 1 つのテーマについてコンペをする形の企画を行っています。こういった試みは地域枠医師に対しての試みとかぶさっていく部分があるかと思いますが、各医療機関や各団体で行っている取組を少し融合できるものは融合させていった方がよいのではないかと思います。そして、そのつないでいく役目をぜひ県の地域医療支援センター等で行っていただくと結果がでてくるのではないかと思います。新潟県はものすごく地域枠医師に気合いを入れていて、サイトもものすごく、本当に桁違いにお金も投入していて、ぜひ神奈川県の場合はほっといても若い先生が集まる傾向にはありますが、逆に頑張ってその医師を定着させていくことは非常に大事だと思います。ぜひ検討いただければと思うのと、委員の先生方にも一応こういうイベントを行っていることのご紹介でございます。

(会長)

ありがとうございました。県としてはこれらの意見を踏まえてしっかり対応をよろしく願います。ほかよろしいでしょうか。

(会長)

以上をもちまして、議事を終了させていただきます。委員の皆様、アクティブな発言をどうもありがとうございました。おかげでスムーズに進んだかと思います。事務局へ返します。

(事務局)

委員の皆様、長時間にわたり本当にありがとうございました。これをもちまして、本協議会を終了いたします。本日はお疲れ様でした。